

VOLVO
240
Series





ボルボはスウェーデンの誇る高度な工業技術から生まれた名車。落ちついたスタイルのなかにキラリと光る個性は、これを欧州車の豊かな伝統を受け継ぐ傑作ならではのものです。ここにご紹介する2ドア・セダン、4ドア・セダン、エステート・ワゴン、と揃った240シリーズにも、オーナーを納得させるボルボの味が充分備わっています。

これも、長年にわたり莫大な研究開発費をかけ、より一層高度な安全性、耐久性、経済性、を追い求め、最高の品質を勝ち得た車だけに出来る味かも知れません。

1975年モデルも、手堅い車づくりは変わりませんが、それにプラスしてエレガントなスマートさが強調されています。それに、より快適なドライブのための細かい心づかいも……デラックスさを増したボルボは、今年もカーマニアの垂涎の的です。

The Volvo Seat

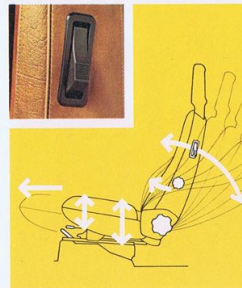
ボルボのシートは、すでに快適な居住性で定評がありました。しかし、1975年モデルに乗ってみれば、また一段と改良され、進歩しているのがわかるはずです。

新しいフルクライニング・シートは、人間工学の成果、つまり人間の骨格、活動時の力点などに関する研究の成果に基づき設計・開発されています。ですから、付属品に至るまでよく体にフィットするのはむしろ当然です。これも、独自に専門医師団を組織し、その研究成果を車づくりに取り入れる、ボルボならではの良さといえましょう。

運転時間の長短や、体格の差などに左右されず、いつも安定したドライブが楽しめる——ストレスが少なければそれだけ安全性が高いというボルボの考えが、ここに脈々と生きています。



あなたにピッタリのシートが選べます。
242 DL、244 DL 用にはファブリック・シート。ストライプと無地があります。(左)
245DLエステート・ワゴンは耐久性のあるケミカルレザー。(右)
GLモデルは豪華な本革シート(下)



どんなに豪華な椅子でさえもボルボのシートほど機能的に作られているものは無いでしょう。

まず、シートの角度が変えられるのはもちろん、ランバーサポートによって背もたれの堅さまで変えられます。2ドアの場合は背もたれの横のボタンを押すだけでフロントシートの背もたれが倒れ、後席への乗り降りが楽に出来ます。

ボルボには、それに加えて独得の機構があります。イスの前部が上がり、レッグスペースを広くする機構と、イスの後部が上がり視界を良くする機構——上下差は5cmもあります。

ファブリックシートの素材には天然繊維が採用され、通気性に富んでいます。シートの骨組みは米国安全規準で定められた5倍もの強度をもたせています。

なお、ドライバー・シートのクッション部と、バックレスト部分には、室内温度が14℃以下になると自動的にスイッチがはいり、25℃になると切れるヒーターが内蔵されています。

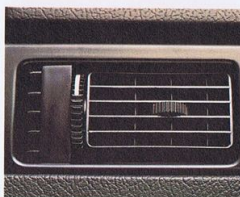
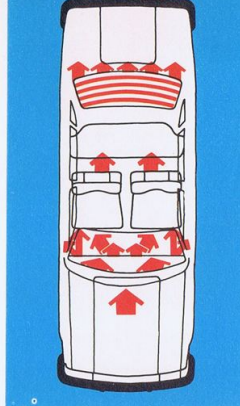


The Volvo Interior

室内空間が広々と設計されているので、大人5人がリラックスしてドライブできます。しかも、シートの機構とサスペンションのバランスが抜群なので、高速、低速、悪路など、どんな条件のもとでもこの快適さは変わりません。

さらに、すべてのダイヤルや計器類、スイッチ類が、おのの適確な場所にセットされているので、心地よい操作感覚が楽しめます。寒い日はサーモスタット付きヒーターが適温を保ち、そして暑い日はサーモスタット付きクーラーがあなたと同乗者に快適な涼しさをもたらします。

ボルボの室内は、機能性でも快適さでも真に一流品。国際的にも“人間至上主義の名車”と認められています。



広々とした室内空間はショールームでも見られますが、テスト・ドライブで新鮮な空気の換気、ヒーター、クーラーを肌で感じてください。

12の空気吹き出し口の内、2つから出るフレッシュエアがウインドのくもりを取りのぞきます(左下)

新設計のフロア・コンソールにはハンド・ブレーキと夜間照明付のシート・ベルト・キャッチが装備されています。またリヤ・パセンジャー用に、便利な内部照明付灰皿も付きました。



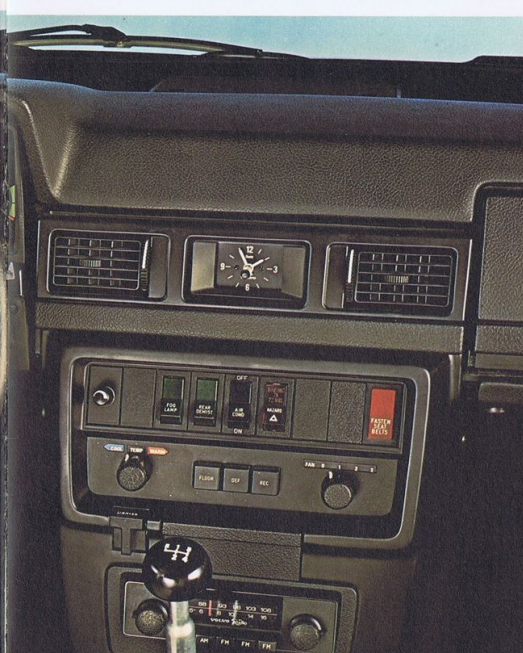
勿論ボルボでは、スタイルは機能から生まれるものと考えており、安全性も5マイル・バンパーにとどまるものではありません。ボルボでは、安全に直結する重要テーマとして、ドライバーの疲労を少なくし、無駄な動きを省くために膨大な研究を続けています。

運転席に座ってみてください。そしてあなたのドライビング・ポジションにシートを合わせてみて下さい。きつとわれわれの努力を理解していただけるでしょう。メーターやノブ類は必要性の高いものから順に理想的に配置されているのです。

第一に安全性につながるもの、第二に快適さにつながるもの、そして灰皿やグローブボックスの使い易さ……もうこれ以上改良の余地がないのではないと思われる程至れりつくせりです。

そして、決め手はエア・コンディショナー。冷暖房、換気を同じファン。同じ12の吹出口を使っておこない、均一な冷暖房に成功しています。優れたスルーフローシステムにより、たとえ窓を閉めきっていても、煙草の煙などかどむことなく、車室のすみずみまで換気が可能です。

なお、水晶時計が標準装備になっていますので、いつも正確な時間がわかり、あなたの大好きな番組を聞きのがすこともなくなるでしょう。



The Volvo Performance

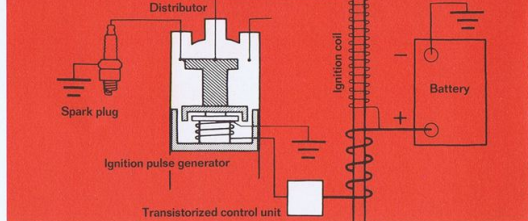
あなたは車をどんな場合に使いますか。普段の足、それとも長距離のドライブ——あなたが車をどのように使うにしても、ボルボをおすすめします。

ボルボなら、たとえ寒冷地の高原でも、真夏の砂漠でも、ノントラブルで走破します。また、かなり長い間使わずにいても、すぐスタートできます。

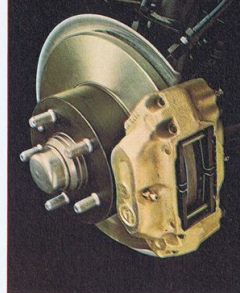
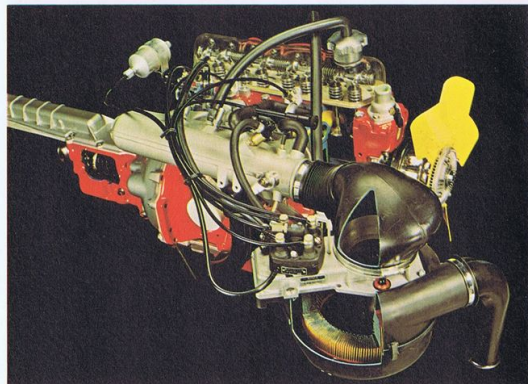
もちろん雨だって雪だって平気です。天候に左右されるような車ではなく、むしろ悪天候こそ真のボルボの威力が発揮できるチャンスとさえいえるでしょう。

あなたが機械についてあまり興味をおもてなかったら、ボルボの性能について知ろうとしなくてけっこうです。ただ性能を信じて乗ってください。ボルボは決して裏切りません。

あなたがカーマニアだったら、もう言うだけやボでしょう。ボルボを選ぶにきまっているから……。



- エンジン・フードを開けるとキャブレターがない事にお気づきになるでしょう。噴射装置を採用しているからです。
- 四輪とも、パワーアシスト・ディスク・ブレーキがついています。
- オートマチック・トランスミッションのシフト・レバー・ノブは使いやすい設計になりました。



ボルボのエンジンはコンパクトです。そのためメンテナンスの時間と費用が節約できます。たとえばエンジンルームのデザインがよいので、冷却水、ブレーキ・オイル、ウインドー・ウォッシャー液の量がひと目でわかります。

しかし、最初にエンジンルームをあげた時には、若干勝手がちがうかも知れません。それはキャブレターが無いからです。そのかわりに、エンジンの中にはいる多量の空気でガソリンの量を調節するガソリン供給システムが装備されました。どんな高回転の時もスムーズなガソリン供給が可能になり、エンジン内に送りこまれるガソリンは効率的に燃焼します。

そのため排気ガスがよりきれいになりました。なお、イグニッション・システムは安定した機能を発揮しメンテナンス・フリーのフル・トランジスター方式を採用し、スターターは10%強力になりました。

その他、4輪ディスク・ブレーキについての倍力装置は、1975年型ボルボの、全車種に装備されています。リヤに内蔵された駐車用のドラム・ブレーキも強化されています。

244の場合、トランスミッションは2タイプのどちらでも選べます。オートマチックを選んだ場合、一番良く使われるのはドライブとセコンド、操作性はとてもスムーズです。PRNと1は安全ボタンを押すようになっています。

マニュアル・トランスミッションは4速で、軽いギヤ・チェンジをお約束します。

242DLと245DLはマニュアルのみ

244GLマニュアルにはオーバー・ドライブ付



The 242/244 GL

ボルボの244GLは、240シリーズ中の高級モデルです。スウェーデンでは、この車種がVIP用の公用車に使われることもまれではありません。

まず最初にGLモデルのメタリック塗装を見てください。それと特別にデザインされたホイールも……これこそ豪華車というにふさわしい落ちつきです。

黒革のシートに座ってください。からだにフィットする感覚は、本革ならではのもの、あなたにふさわしいシートです。また、手にしっとりなじむステアリングもボルボ独得です。もちろんタコメーターでエンジン回転数も一目瞭然。パワーステアリングによって、太いスチールラジアルタイヤも楽々操作できます。そして、その操作性をささえるサスペンションとバランス良くマッチしています。

運転のたやすさと室内音の低さが相まって、もたらす居住性により長距離ドライブもなんなくこなせます。また、パーティーの場合など車体の美しさが一段と光るのではないのでしょうか……。



タコメーターを生かして使っていただくために、シフトレバーの先端にオーバードライブのスイッチがついています。サンルーフは、日本仕様にはありません。



1975年240シリーズのGLモデルは、世界中で大きな反響を呼び、“よく考えられた名車”という評判を得ました。

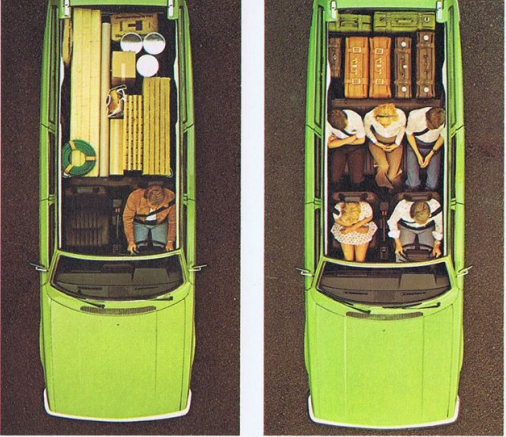
164から受けついで革張りのシートが標準装備になりました。ドライバーシートのクッションとバックレスト部分は、室温が14℃以下になると作動し、25℃になると、自動的にきれるヒーターがついています。

快適なドライブを楽しみ、しかも燃費が節約できるようにオーバードライブ付4速トランスミッションが標準装備。オーバードライブで回転数が20%カットできるようになっています。オーバードライブはシフトレバーの上部のスイッチを操作してください。クラッチを踏まずにチェンジできます。パワーステアリングとスチールラジアルタイヤも標準装備です。



The Volvo 245

ボルボ245DLエステート・ワゴンの装備は他の240シリーズと殆ど同じです。寸法は長くなってもいなければ、それ程重くもなっていません。セダンの良さがそのまま受けつがれています。スタイルは、ボルボならではのスマートさ、サイドは垂直、リヤデッキもほぼ垂直にカットして、気品高く仕上げています。しかもこのためにとても大きなメリットが生まれました。バックシートをそのままにしても、充分すぎる空間がありますが、バックシートをたたむと、3人がけソファと2つのイスが収まるほど大きな空間が得られます。これだけ荷物を積むスペースがありがたから245の最少回転半径はセダンと同じ4.9mとちいさく、パーキングも楽々できます。使い勝手のよい245ワゴンは、あなたの生活をより豊かにするでしょう。



ボルボ245のルーフをはずして、よく見ていただきます。まだこれで充分でない場合、ルーフ・ラックもあることをお忘れなく。

リヤウインドウに取りつけられたワイパーは、熱輸入リヤウインドウとともに、あなたの視界を確保します。



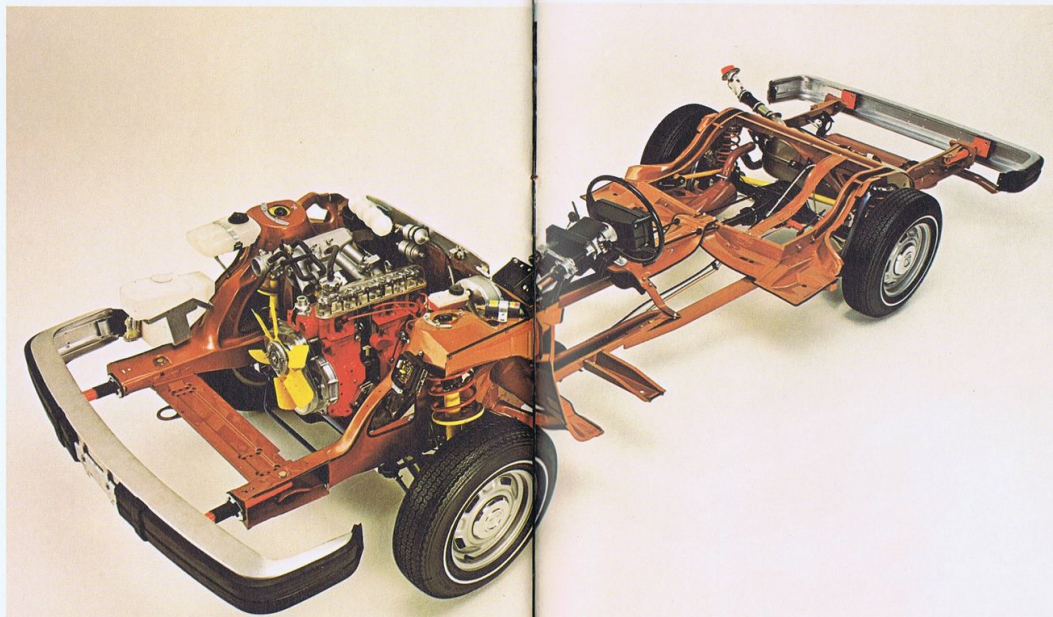
ボルボ245DLは、244と多少異なるワゴン特有の機構を持っています。たとえばリヤシートが広く、簡単に操作出来るのもそのひとつ。そしてスペアタイヤはセダン同様ホイールハウスの後方に格納され、リヤデッキ下に集納スペースを確保しています。245の五枚目のドアにもチャイルド・ブローフ・ドアロックが標準装備です。またショックアブソーバーをはじめとするリア・サスペンションは荷物用に強化されています。リアウインドについてウインドウウォッシャーとワイパーは1975年モデルからの改良点。内装は洗いがきくケミカルレザー張りですから、汚れやすいワゴンには便利です。もちろんパワーステアリングは標準装備ですから、どんなに荷物を積んでもステアリングはいつもスムーズです。



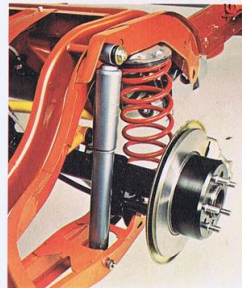
The Volvo Suspension and Steering Systems

8年ぶりにモデル・チェンジした、この240シリーズはボルボの4600万ドルもの投資をした研究所で技術開発され、設計、デザイン、テスト調査を積み重ねられたすえ、生まれた偉大な成果です。しかも研究所内の、広大なテスト・トラックでも数々の走行テストをおこなっています。この間に加えられた改良は、あまり外見にあらわれていません。しかし、ひとたび道路に出れば、その成果ははっきりと表われます。

もし、ボルボのテストドライブをしたことがなければ、ぜひ一度お試し下さい。路面にすいつくような走行感覚に、かならず驚かれるはずで。そして信頼していただけるでしょう——フロントとリアのサスペンションを、ステアリング・システムを……。数々の改良点により乗心地と走行感覚は良くなりました。しかし車を完全にコントロールしているという感覚と、定評あるボルボの耐久性は失われていません。



あなたが、自動車専門家でなくとも一度ご自身で運転していただければ、優れたサスペンションにすぐお気づきになると思います。砂や石やどろ沼のような悪路でも、容易なコーナリングができるでしょう。



ボルボの技術改良は外観からは発見しにくいので、この写真をお見せいたします。1975年型の240シリーズは、安全性の面で大きく改良されているのです。そしてこれからも、このテーマを発展させるのがボルボの使命と考えています。

たとえば、安全を追求する新しいシステムとしてはフロントサスペンションの、マクファーソン・ストラットがあります。

その結果ワイドトレッドとロングホイールベースの採用も、可能になりました。お乗りになれば、フロント・サスペンションにマッチした、リア・サスペンションの改良も充分おわかりいただけるでしょう。

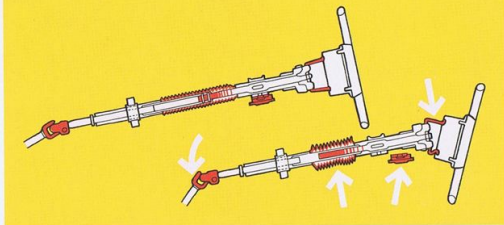
またマクファーソン・ストラットにマッチしたラック・アンド・ピニオンステアリング方式の採用により、軽く正確なハンドリングが得られ、キック・バックも減少しました。タイヤもワイドになり、スチール・ラジアルタイヤを採用しました。このためコーナリング時のボディ・ロールが防げるはずで。

フロント・サスペンション機構は一層シンプルになり、耐久性も増しました。方向安定性も改良されステアリング特性はよりニュートラルに近づきました。こうして、ロード・ホールディング、ハンドリングや乗心地は大幅に改善されたのです。しかし、ボルボはまだ満足していません。これから日々、完成に向かって努力していくつもりです。

ボルボが安全であるというのは世界的に定評があります。それは1959年他車にさきかけてシートベルトを標準装備したことに端的に表われています。

もちろん、安全性というのは車を運転する人間は常に危険にさらされている、という認識から生まれなければなりません。

ボルボのシートに座って、頑丈なボディが、どんな意味をもつか、ちょっと考えてみて下さい。きっとわれわれの言わんとすることがご理解いただけるでしょう。



ステアリング・コラムは四個所にショック吸収機構が付いています。左からブレーク・アウェイ・ジョイント、テレスコピック——これにより前部が中にずれこむのを防ぎ、スリップ・ジョイントとクランプゾーンはステアリングが身体に平行に当るようにします。これによってショックをやわらげます。

強固なビラーにより客室を保護しています。

サイド・デフロスターによりサイド・ウィンドーは曇りません。

アンダーコーティングが二重になっているので耐久性も充分です。

下塗りはボディ全体を塗料に漬けるため、塗り残しはありません。

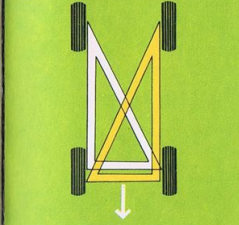
ヘッドライトも一層シャープになりました。

ライナーコート付のバンパーは、ショック吸収能力にすぐれています。

バンパーは油圧ショックアブソーバーでボディに接続されています。

ラックアンドピニオンステアリングは、方向安定性を増しました。

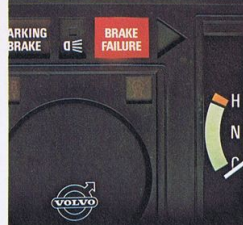
マクファーソンストラットタイプのフロントサスペンションは、すぐれた乗心地とハンドリングを誇ります。



ボルボは自重六分耐えられるボディを持っています。

二系統のブレーキシステムは、前二輪と後輪ひとつが三角形に結ばれて一系統を形づくっています。もし、どちらか一系統に欠陥が生じても、まだ三輪にブレーキがきているので、平常時の80%の能力が最後まで確保できます。

ダッシュボードの警告灯は、ハンドブレーキ、ハイビーム、テールライト、ストップライト、ブレーキが正常に作動しているかどうかを示します。



ボルボのセーフティベルトは3点支持のイナーシャリール付で装着しても不自然さがありません。

熱線入リアウィンドー

リヤシート近くにセットされたガソリタンクは、後部の事故の際火災の発生を軽減します。

スチール・ラジアルタイヤは、パフォーマンスを良くします。

ロッカーパネルは、湿気と錆を防止するため、通気構造になっています。

各ドアに鋼鉄のパイプが組みこまれているので横からの衝突時にも乗客を保護します。

フロント・エンドのようにサビやすい部分には亜鉛メッキスチールをふんだんに使っています。

四輪すべてにサーボ・アシスト付きディスクブレーキ装備。

Specifications 240 Series

エンジン

連続燃料噴射装置付B20F型。総排気量1986cc。圧縮比8.7:1。

燃料装置

燃料蒸発防止装置付60ℓタンク。電磁式燃料ポンプ。

冷却装置

冷却水容量：9.4ℓ・ロングライフ・クーラント入・密閉式ラジエーター。半透明のリザーブ・タンク付。

電気系統

12Vトランジスター・イグニッション。55A-770W交流発電機。60Aバッテリー。スターター・モーター：1.1HP。

変速機

マニュアルフルシンクロ前進4段フロアー・シフト(244GLは電気式スイッチによるオーバードライブ付)変速比：1st 3.41:1、2nd 1.99:1、3rd 1.36:1、4th 1.00:1、リバーズ3.25:1、オーバードライブ0.797:1、最終減速比：4.10:1、オーバードライブ付4.30:1 ボルグワーナー社製3速オートマチック・トランスミッション。フロアー・シフト。照明付インジケーター：6ポジション(P.R.N.D.2,1,)最終減速比：4.10:1 (除く、242DL、245DL)

ステアリング機構

ラック・アンド・ピニオン式。コラプシブル・ステアリング。パワーステアリング標準装備。ステアリングギヤ比：17.1:1 ロック・ツー・ロック 3.5回転 回転半径：4.9m。

サスペンション機構

前輪：マックファーソン・ストラット方式。コイルスプリング式テレスコピック・ショック・アブソーバー。アンチ・ロールバー付。後輪：リジッド・アクスル方式。トルクロッド、アンチ・ロールバー 付(除く、245DL)。コイル・スプリング式テレスコピック・ショック・アブソーバー。

ホイール、タイヤ

スチールラジアルタイヤ、ホワイトリボン付。5.5" J×14。 鋳鉄製ディスク・ホイール。 175SR-14: 242DL、244DL 3/4、 185SR-14: 244DL 3/4、 244GL、245DL。

ブレーキ機構

自動調節装置付4輪ディスクブレーキ。パワーアシスト付。リリーフバルブ付リヤ・ブレーキ。 ダブル・トライアングル式二系統システム。 駐車ブレーキ：リヤドラム内蔵。

計器、インテリア

ダッシュボード：6桁積算計、及びトリップ・メーター内蔵のスピード・メーター。タコメーターはGLに標準装備、その他はオプション。燃料計、水温計、警告灯(チャージ/油圧/ハイビーム/駐車ブレーキ/フットブレーキ/失陥、ストップランプ、テールランプ、ロービーム各バルブ断線、オーバードライブ)。水品時計。全面パッド入りダッシュボード。照明、キー付グローブボックス。ステアリングコラム：ビーム切替、方向指示器、フロント・ウィンドー及び

ヘッドライト用ワイパー・ウォッシャーのコンビネーションレバー。センターコンソール：リヤ・ウィンドー熱線スイッチ。4ウェイ・フラッシュスイッチ。ヒーター、クーラーの自動温度調節。ブロー・コントロールスイッチ。ラジオ用オートアンテナ・スイッチ。シガー・ライターと灰皿。インストルメント・パネル照度調節スイッチ。

エアコンディショナー

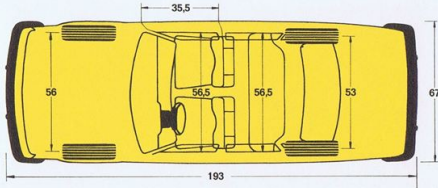
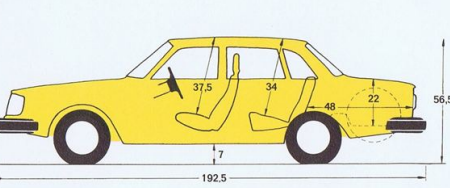
フロント・ウィンドー・デフロスター。フロント・ドアウィンドー・デフロスター前席、後席のフロアー。それとダッシュボードまわりに計12個所のフレッシュ、ヒート、クール・エアーの吹出し口を持つスルーフローシステム。3段切替ファン。循環、除湿システム付。242DLはオプション。

シート

フロントシート：ランバーサポート付、フルリクライニング・シート。リヤシート：センターアームレスト付(セダン)ベンチシート。ドライバシートは高さ調節装置。シート・ヒーター付。GLモデルのシートは革張り、245DLはケミカルレザー、その他はファブリック。

その他標準装備

3点式イナーシャリール・ベルト、ベルトキャッチャーは照明付。リヤシートは2人分の3点式イナーシャリール・ベルトと1人分の2点式ベルト付。リヤシート用照明と灰皿。フロント・ウィンドーは安全合せガラス使用。熱線吸収ガラス。防眩スイッチ付バックミラー。ドアポケット付フロント・ドア、前後にけん引用フック付。GLモデルはメタリック塗装、スポーティ・ハンドル。エンジンルーム照明用ランプ付。



*メーカー発表数値(インチ)

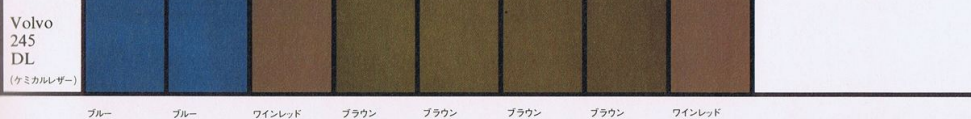
ボディカラー



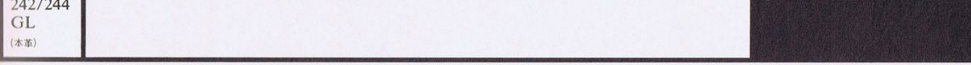
シートカラー



Volvo 245 DL



Volvo 242/244 GL

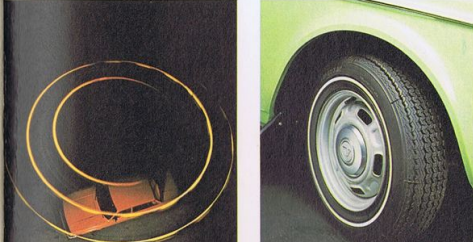
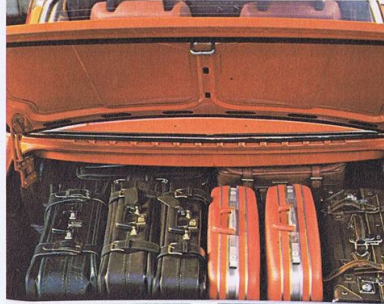


*乗員は強力なメンバーやロールバーで構成された鋼鉄の枠で護られています。(左)

*箱型に広く設計された使いやすいトランクルーム。(右)

*回転半径は4.9mと小さく、狭い場所への駐車など、容易です。(左下)

*耐久性のあるスチールラジアルタイヤは、操縦性を高め、しかも燃費を軽減します。(左下)



*この仕様は、予告なく変更することがあります。
*写真は日本国内で販売されるものと仕様が多少違っている場合がありますので、ご了承ください。



帝人ボルボ株式会社

本社・東京都港区六本木6-11-9 スウェーデンセンター内 〒106 TEL (03) 403-5171
ショールーム・スウェーデンセンター内 TEL (03) 470-2833
東京支社・東京都目黒区神文谷2-11-19 〒152 TEL (03) 714-3261~4
名古屋営業所・名古屋市中南区東又兵衛町5-1
大阪営業所・大阪市東区南本町1-11 帝人株式会社 大阪本社内